
2023年3月期 第3四半期 決算説明資料



2023年1月31日

2023年3月期 第3四半期 決算概要

売上拡大施策が奏功、売上高は過去最高 栃木センター(一過性の先行投資)負担あり、減益

単位: 億円 ／(対売比)	2022年3月期 3Q累計	2023年3月期 3Q累計	
		増減	増減率
売上高	8,021	8,481	+460 +5.7%
売上総利益	623 (7.78)	630 (7.43)	+6 (△0.35) +1.0%
販管費	421 (5.26)	438 (5.17)	+17 (△0.09) +4.1%
営業利益	202 (2.52)	191 (2.25)	△11 (△0.27) △5.5%
経常利益	223 (2.78)	214 (2.52)	△9 (△0.26) △4.1%
四半期純利益	157 (1.96)	147 (1.74)	△9 (△0.22) △6.2%

売上高伸長が段階利益を牽引 厳しい環境下ながら、額ベースで増益を確保

単位:億円 /(対売比)	2022年3月期 3Q累計	2023年3月期 3Q累計	
		増減	増減率
売上高	8,021	8,481	+460 +5.7%
売上総利益	623 (7.78)	639 (7.54)	+15 (Δ0.24) +2.5%
販管費	421 (5.26)	436 (5.15)	+14 (Δ0.11) +3.5%
営業利益	202 (2.52)	203 (2.40)	+0 (Δ0.12) +0.4%
経常利益	223 (2.78)	226 (2.67)	+2 (Δ0.11) +1.3%
四半期純利益	157 (1.96)	159 (1.88)	+2 (Δ0.08) +1.5%

※ 栃木物流センター新設に伴う費用(3Q累計) 売上原価:9.5億円 販管費:2.5億円

売上高 8,481億円

前期比増減：+460億円 増減率：+5.7%

- ・小売業様、メーカー様との連携・協働による取組強化
- ・ニューノーマルにおける生活者ニーズを満たす新規商品の調達強化
- ・感染拡大下においても人流が増加 ⇒ コロナ関連商材と外出関連商材の需要がともに拡大
(冷却剤・風邪薬・メイクアップ・ドリンク剤等)
- ・季節商材 (夏物)殺虫剤が苦戦 (冬物)気温低下によりカイロ等が好調に推移

売上総利益 630億円 対売上比率 7.43%

前期比増減：+6億円 (対売上比率:△0.35%)

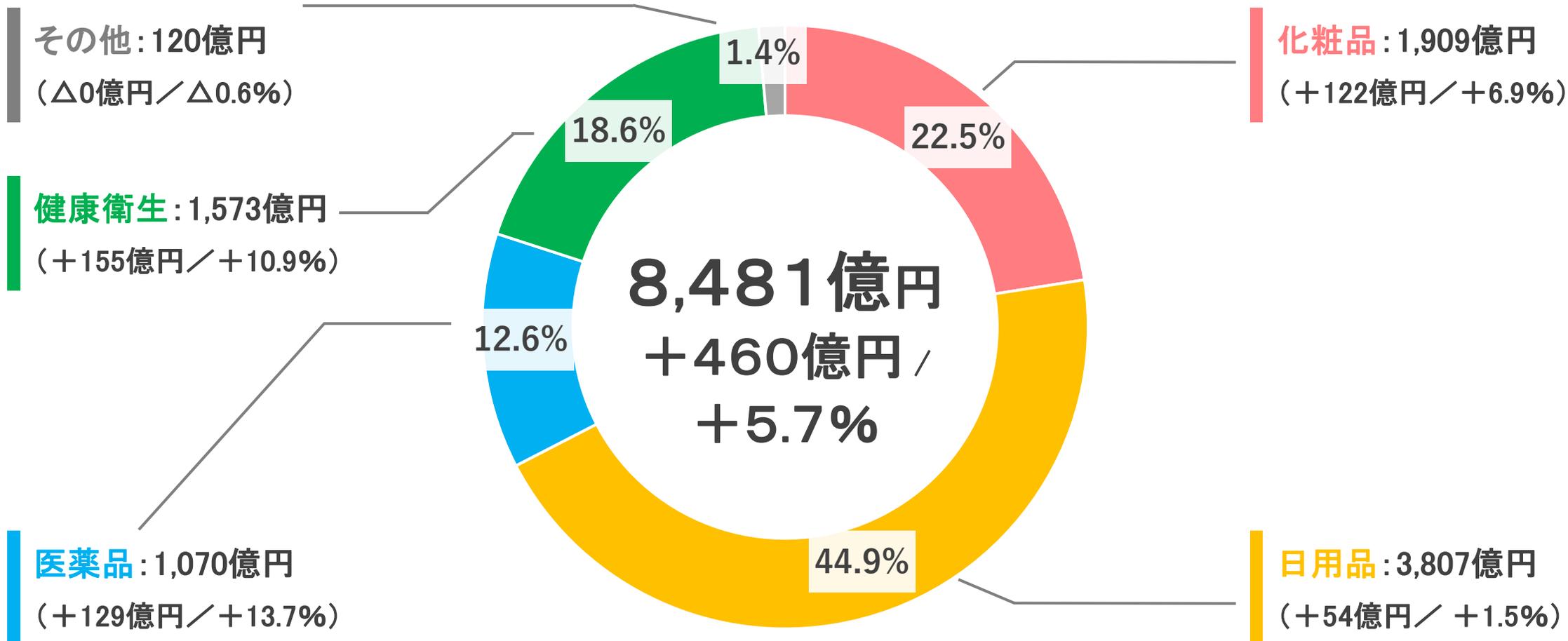
- ・食品含め値上や売価上昇により、生活者の節約志向や買控えに伴う低価格志向の高まり
⇒小売業様の特売・チラシ(売上総利益減少要因)の頻度が想定外に増加
- ・原材料価格高騰等によるメーカー様販促費の減少
- ・栃木物流センターの新設に伴う費用(△9億円 人件費・少額資産など)
- ・センターフィの増加(センターフィ発生企業の売上増加・燃料費高騰など)

販管費 **438億円** 対売上比率 **5.17%** **前期比増減：+17億円 (対売上比率: Δ0.09%)**

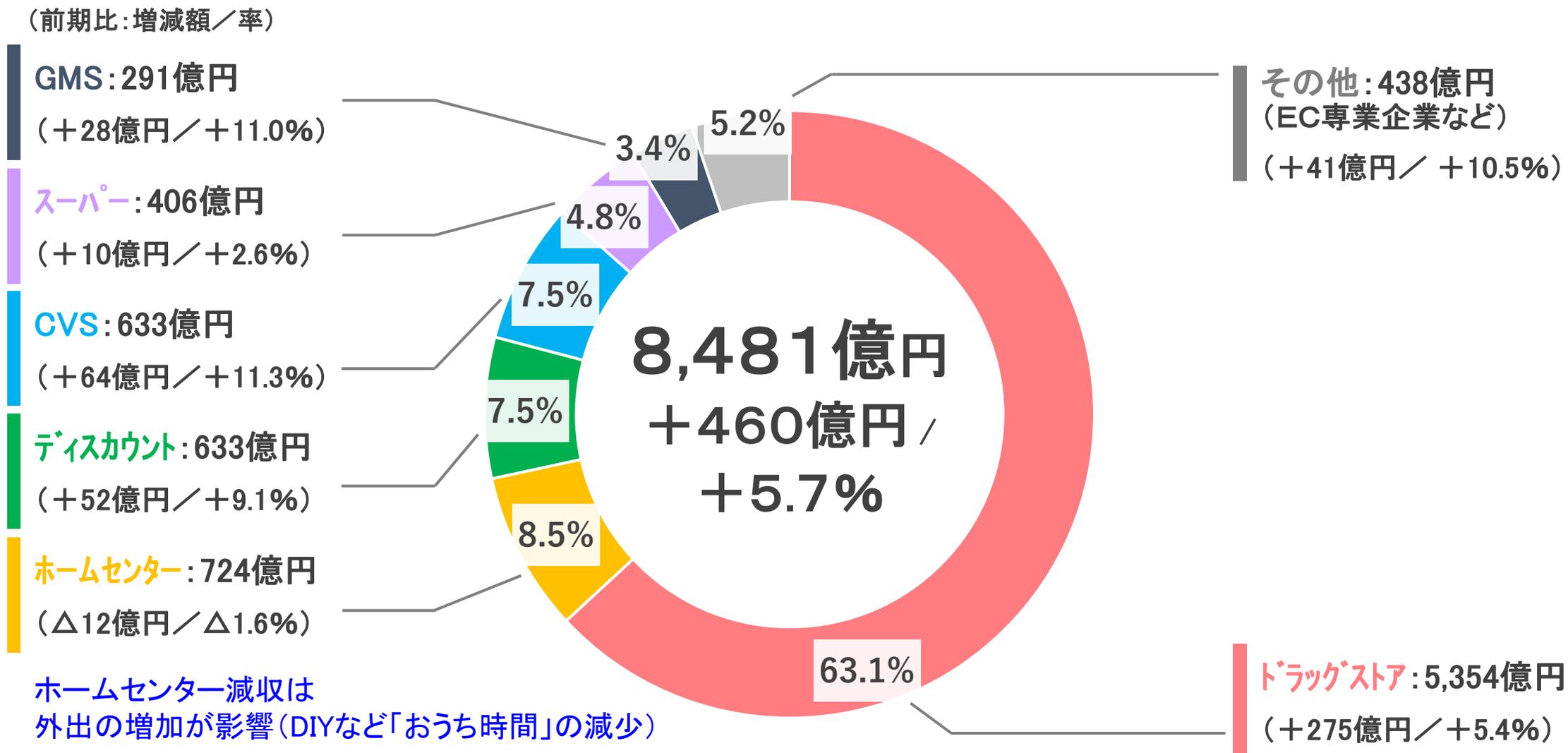
- **人件費の増加** **+6億円(Δ0.05%)**
 - ⇒ 中長期での成長に向けた人財の確保
 - ⇒ 単位(ライン)あたり受注量の減少や感染症拡大の影響を受け作業効率低下も庫内活動全般の改善に取り組み、率上昇を抑制
- **配送改善の推進(中計の重点課題)** **+1億円(Δ0.04%)**
 - ⇒ 配送単価上昇の環境下において、出荷拠点見直しによる配送距離短縮ほかホワイト物流への対応など改善に取り組む
- **栃木物流センターの新設に伴う費用(不動産取得税)** **+2億円(+0.03%)**
- **燃料費高騰による電気代の上昇** **+1億円(+0.02%)**

ほぼ全てのカテゴリーで増収

(前期比:増減額/率)



ホームセンターを除く全ての業態で増収



第3四半期(10-12月)の状況

売上拡大施策の効果が徐々に発現

各段階利益、販管費にも好影響、額ベースの増益を確保

単位:億円 ／(対売比)	1Q			2Q			3Q		
	2022年3月期	2023年3月期	増減	2022年3月期	2023年3月期	増減	2022年3月期	2023年3月期	増減
売上高 〔増減率〕	2,696	2,762	+65 〔+2.4%〕	2,618	2,786	+167 〔+6.4%〕	2,705	2,932	+227 〔+8.4%〕
売上総利益	209 (7.78)	207 (7.53)	△1 (△0.25)	203 (7.79)	202 (7.26)	△1 (△0.53)	210 (7.77)	219 (7.49)	+9 (△0.28)
販管費	139 (5.18)	142 (5.17)	+3 (△0.01)	140 (5.37)	147 (5.31)	+7 (△0.06)	141 (5.22)	148 (5.05)	+6 (△0.17)
営業利益	70 (2.60)	65 (2.36)	△4 (△0.24)	63 (2.42)	54 (1.95)	△8 (△0.47)	68 (2.55)	71 (2.44)	+2 (△0.11)
経常利益	77 (2.87)	73 (2.66)	△4 (△0.21)	69 (2.66)	61 (2.20)	△8 (△0.46)	76 (2.82)	79 (2.71)	+3 (△0.11)
四半期純利益	54 (2.02)	50 (1.83)	△3 (△0.19)	50 (1.93)	42 (1.52)	△8 (△0.41)	52 (1.94)	54 (1.86)	+2 (△0.08)

売上拡大を軸にした利益極大化施策の効果を発揮

3Qは営業利益段階で大幅増益(額率ともに昨年を上回る)(栃木案件除き)

単位:億円 /(対売比)	1Q			2Q			3Q		
	2022年3月期	2023年3月期	増減	2022年3月期	2023年3月期	増減	2022年3月期	2023年3月期	増減
売上高 〔増減率〕	2,696	2,762	+65 〔+2.4%〕	2,618	2,786	+167 〔+6.4%〕	2,705	2,932	+227 〔+8.4%〕
売上総利益	209 (7.78)	208 (7.55)	△1 (△0.23)	203 (7.79)	207 (7.43)	+3 (△0.36)	210 (7.77)	223 (7.64)	+13 (△0.13)
販管費	139 (5.18)	142 (5.17)	+3 (△0.01)	140 (5.37)	145 (5.23)	+5 (△0.14)	141 (5.22)	147 (5.04)	+6 (△0.18)
営業利益	70 (2.60)	65 (2.38)	△4 (△0.22)	63 (2.42)	61 (2.20)	△1 (△0.22)	68 (2.55)	76 (2.60)	+7 (+0.05)
経常利益	77 (2.87)	73 (2.68)	△3 (△0.19)	69 (2.66)	68 (2.45)	△1 (△0.21)	76 (2.82)	84 (2.87)	+7 (+0.05)
四半期純利益	54 (2.02)	51 (1.85)	△3 (△0.17)	50 (1.93)	49 (1.77)	△1 (△0.16)	52 (1.94)	59 (2.02)	+6 (+0.08)

※ 栃木物流センター新設に伴う費用(3Q 10月-12月) 売上原価:4.3億円 販管費:0.2億円

感染拡大下での人流増加による幅広い需要の拡大が継続 物価高騰に伴う値上げに対する消費マインドの変化には引き続き注視

- ⇒ 食品含め値上や売価上昇により、生活者の節約志向や買控えに伴う低価格志向の高まりにより小売業様の特売・チラシ(売上総利益減少要因)の頻度が増加
- ⇒ 行動制限の緩和に伴う人流拡大により、メイクアップやドリンク剤など外出関連商材の需要が拡大
- ⇒ 感染拡大に伴う症状を緩和する風邪薬・解熱鎮痛剤の需要拡大に加え、一般用向けに販売が解禁された抗原検査キットの需要が拡大
- ⇒ 気温低下に伴い冬物商材(カイロ等)の需要が拡大

売上高 2,932億円

前期比増減：+227億円 増減率：+8.4%

厳しい環境下、売上拡大施策効果により、四半期単位の過去最高額を計上

- ・小売業様、メーカー様との連携・協働による取組強化
- ・ニューノーマルにおける生活者ニーズを満たす新規商品の調達強化
- ・感染拡大下においても人流が増加したため、コロナ関連商材と外出関連商材の需要がともに拡大
(メイクアップ・ドリンク剤・風邪薬・抗原検査キット等)

売上総利益 219億円 対売上比率
7.49%

前期比増減：+9億円 (対売上比率:△0.28%)

厳しい環境は継続も、多面的な改善が奏功、売上比率の対前年悪化幅は2Qより縮小

- ・食品含め値上や売価上昇により、生活者の節約志向や買控えに伴う低価格志向の高まり
⇒小売業様の特売・チラシ(売上総利益減少要因)の頻度が増加
- ・原材料価格高騰等によるメーカー様販促費の減少
- ・栃木物流センターの新設に伴う費用(△4億円 人件費・少額資産など)
- ・センターフィの増加(センターフィ発生企業の売上増加・燃料費高騰など)

販管費

148億円

対売上比率
5.05%

前期比増減：+6億円（対売上比率：△0.17%）

**ローコスト物流を活かした売上拡大・改善取り組みにより
変動費の上昇を抑えつつ固定費吸収を進め、販管費率は大幅に改善**

- ・ 人件費の増加 +2億円(△0.08%)
 - ⇒ 中長期での成長に向けた人財の確保
 - ⇒ 単位(ライン)あたり受注量の減少や感染症拡大の影響を受け
作業効率低下も庫内活動全般の改善に取り組み、率上昇を抑制
- ・ 配送改善の推進(中計の重点課題) +0億円(△0.05%)
 - ⇒ 配送単価上昇の環境下において、出荷拠点見直しによる
配送距離短縮ほかホワイト物流への対応など改善に取り組む
- ・ 栃木物流センター建設に伴う費用 +0億円(+0.01%)
- ・ 燃料費高騰による電気代の上昇 +0億円(+0.02%)

持続的成長に向けた取り組み

事業活動を通じてSDGs達成に向けた取り組みを推進

- ダンボール破材の再資源化のエコシステムを構築
 - ⇒ CO2排出量の削減・「緑の募金」を通じた地球環境保全の推進
 - ⇒ ダンボール破材の販売収入拡大
- 連携・協働による長距離輸送の効率化
 - ⇒ ドライバーの労働環境の改善・CO2排出量の削減
 - ⇒ 入荷作業の平準化によるセンター内作業の効率化
- 「コスメバンク プロジェクト」にパートナー企業として参画
 - ⇒ 1人でも多くの人へ化粧品をお届け・商品廃棄に伴う環境負荷の軽減

ダンボール破材再資源化のエコシステムを構築

納品トラックの帰り便・RDC機能(自動集約・圧縮)を活かし
流通過程で発生するダンボール破材の効率的な再資源化を実現



取り組み効果

- ・小売業様のダンボール破材を個別回収するパッカー車が不要
- ・当社で加工後、直接再生工場へ
⇒ 輸送に伴うCO2排出量の削減
- ・ダンボール破材の取扱拡大

ダンボール破材の自動集約・圧縮をRDC機能の一部として組み込み

コンベアを通じて一箇所に集約

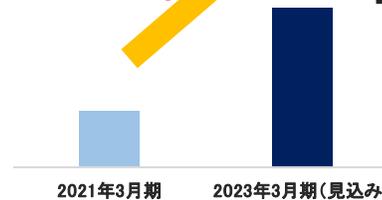


自動でキューブ状に圧縮



当社物流センター内で発生する破材はコンベアを通じて一箇所に集約
店舗回収分と併せてキューブ状に圧縮(リサイクルしやすい形状)

2.8倍



⇒ 収入の一部を「緑の募金」に寄付
緑化・地球環境保全を推進

※ 詳細は当社HP掲載プレスリリース「緑の募金」への寄付に関するお知らせ(2022年12月19日)をご参照ください。

効率的な仕組みを活かし、環境負荷の軽減を推進

連携・協働による長距離輸送の効率化

グリーン物流優良事業者表彰にて最高位である国土交通大臣表彰を共同受賞

貸切車両による長距離輸送を
中間拠点を起点とした中継輸送に変更 (右図参照)

～ 鈴与株式会社様・ライオン株式会社様・ユニリーバ・ジャパン株式会社様との協働 ～

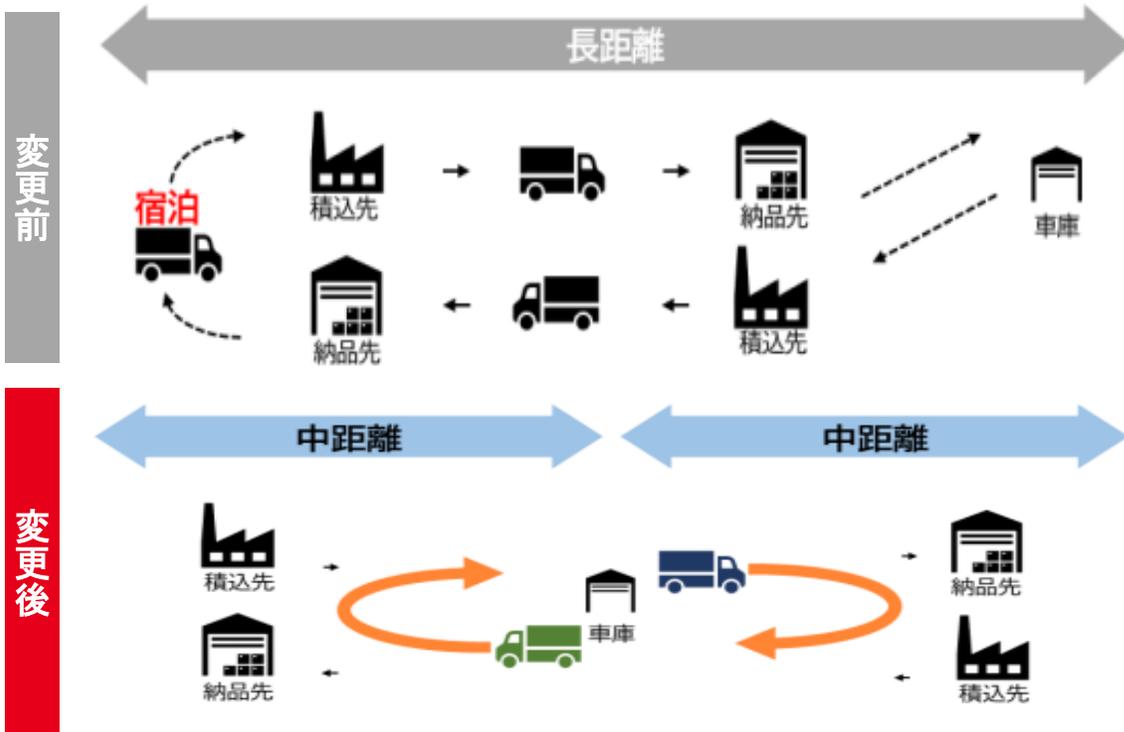
取り組み効果

積載率・実車率の向上、輸送距離の短縮

- ⇒ ドライバーの労働環境改善
- ⇒ CO2排出量の削減(約30%削減)

入荷作業の平準化

- ⇒ 物流センターの運営効率向上



※ 詳細は当社HP掲載プレスリリース「グリーン物流優良事業者表彰にて最高位である国土交通大臣表彰 共同受賞」(2022年12月23日)をご参照ください。

サプライチェーン全体で持続可能な流通の構築を目指す

「コスメバンク プロジェクト」にパートナー企業として参画

生活必需品を取り扱う中間流通企業として、社会課題の解決に向けた活動を支援

本プロジェクトの理念と活動



「女性と地球にスマイルを」

化粧品メーカー様のご支援のもと
リニューアルなどに伴い廃棄されるのみであった
良品を経済的困難を抱える女性に無料配布
商品廃棄に伴い発生する環境負荷も軽減

※ 詳細は当社HP掲載プレスリリース「コスメバンクプロジェクト」にパートナー企業として参画」(2022年12月19日)をご参照ください。

人々が豊かで快適に暮らせるサステナブルな社会の実現に貢献

2023年3月期 業績予想

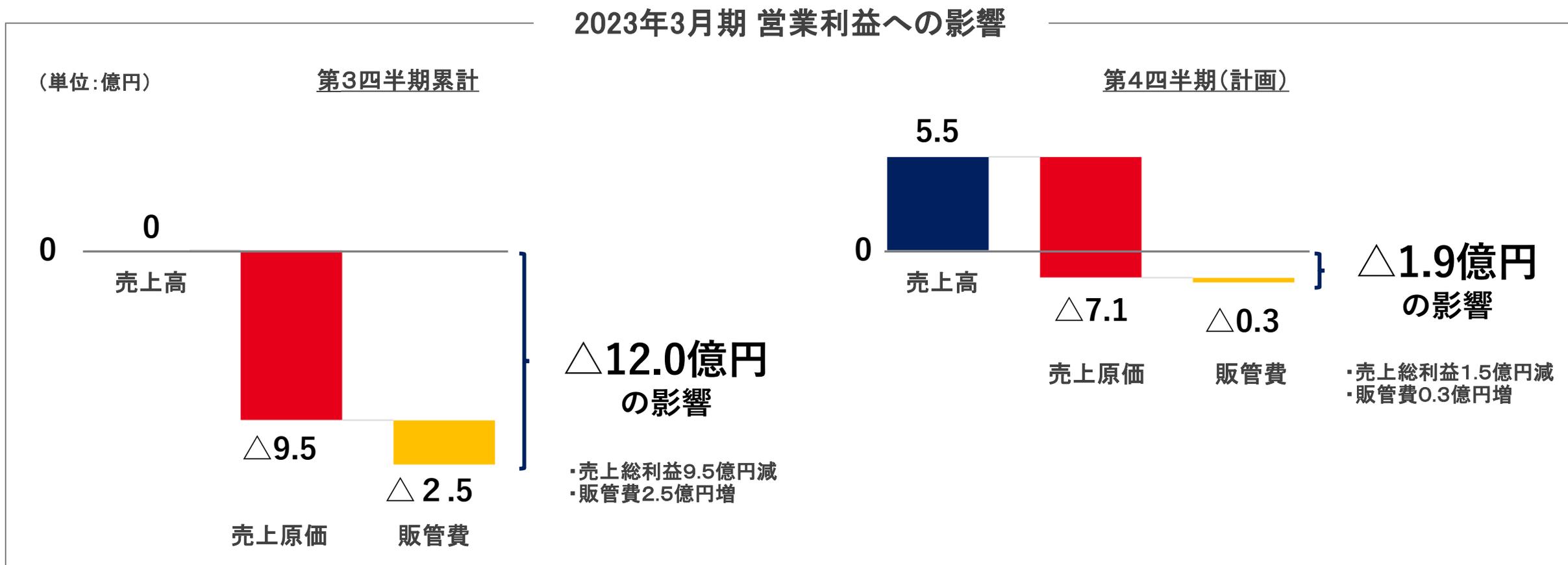
期初公表値から変更なし(2022年5月11日)

単位: 億円 / (対売比)	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	増減	増減率
売上高	10,457	10,800	+342	+3.3 %
売上総利益	817 (7.82)	828 (7.67)	+10 ($\Delta 0.15$)	+1.3 %
販管費	558 (5.34)	581 (5.38)	+22 (+0.04)	+4.1 %
営業利益	259 (2.48)	247 (2.29)	$\Delta 12$ ($\Delta 0.19$)	$\Delta 4.7$ %
経常利益	286 (2.74)	274 (2.54)	$\Delta 12$ ($\Delta 0.20$)	$\Delta 4.3$ %
当期純利益	196 (1.88)	190 (1.76)	$\Delta 6$ ($\Delta 0.12$)	$\Delta 3.3$ %
1株当たり当期純利益(円)	310.34	302.32	$\Delta 8.02$	$\Delta 2.6$ %

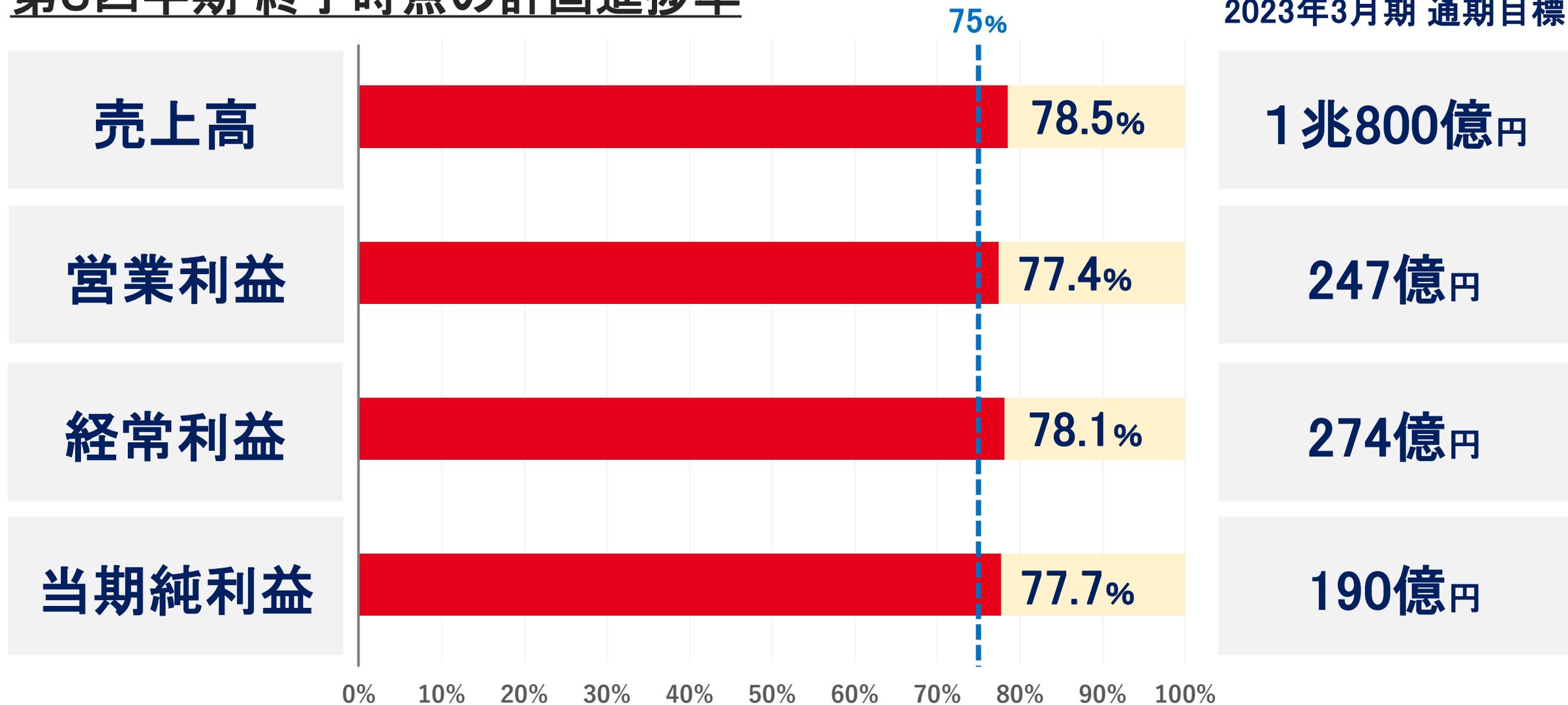
**新センター稼働に伴い一時的に減益も
ローコスト経営を活かし、持続的成長に向けた布石を打つ**

営業利益への影響は、3Q累計実績で△12.0億円 第4四半期は△1.9億円、通期では△14.0億円の影響を見込む

(2024年3月期には営業利益+4億円の貢献見込)

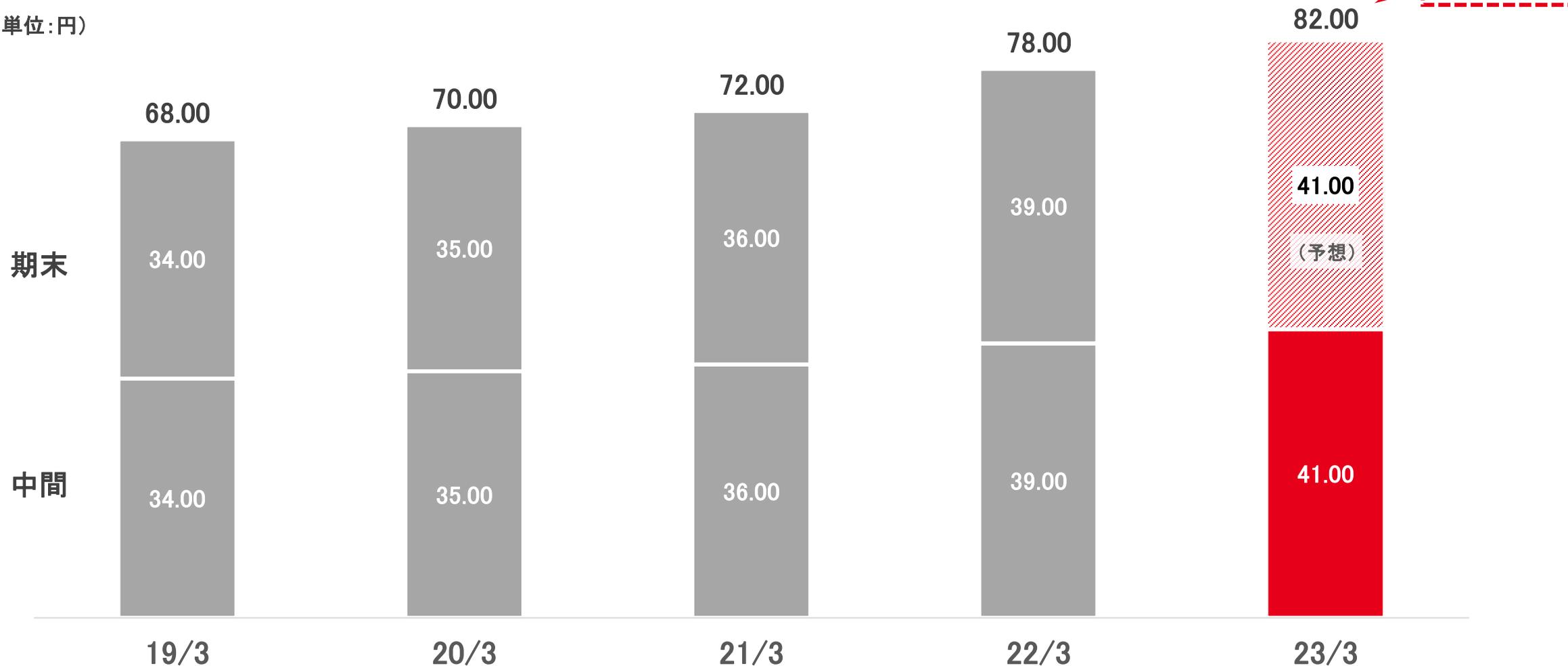


第3四半期 終了時点の計画進捗率



上場以来 13期連続して増配(予想含む)

(単位:円)



将来見通しに関する注意事項

本書において提供される資料並びに情報は、本書の作成時点における予測等を基礎として記載されています。これらの記述のためには、一定の前提(仮定)を使用しています。これらの記述または前提(仮定)には、将来における既知または未知のリスク及び不確実性が内在し、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。

新しい情報、将来の出来事もしくはその他の事項により、見通し情報に更新もしくは改正が望ましい場合であっても、当社は、それを行う意図を有するものではなく、義務を負うものではありません。